

平成 26 年度第 2 回 流山市環境基本計画策定部会 議事録

平成 26 年 4 月 28 日 (月) 13 時 30 分開会 18 時 00 分閉会

出席委員：

吉永明弘部会長、和田登志子副部会長、新保國弘審議会会長、
秋元五郎委員、中大路早智江委員

事務局（環境政策・放射能対策課）：

染谷課長、片浦係長、遠藤副主査、小山内主事
リジонаル・プランニング・チーム（コンサルタント）1 名（内藤）

傍聴者：1 名

【骨子案について】

発言者	要旨
事務局	(説明)
委員	1 頁最下段の破線枠内について、現在の環境政策を踏まえて「環境政策は、エネルギー、緑化、都市整備など」とされたい。3 頁の自然環境の現状について。利根運河は河川法で河川とされているため、「中小河川（利根運河・坂川・大堀川など）からできています。」とされたい。
委員	2 頁 3 の PDCA は P・D・C・A とどちらが適切か。
事務局	PDCA サイクルとするのが適切である。
副部会長	同じところで、Plan, Do, Check, Action のカタカナは、英語がわからない人に適切である。
委員	英語表記とカタカナの読み仮名、和訳を併記されたい。
部会長	説明が長くなるため、欄外に記載するのがよい。（全員同意）
副部会長	各所の枠内の説明について、内容が共通するものが、同じ枠の形になるようにされたい。また 1 頁の破線枠の内容は、読まないといけないため、工夫が必要である。
委員	1 頁位置付けの図について、総合計画は健康都市宣言より後に策定されたものなので、総合計画から健康都市宣言へ向かう矢印は不要ではないか。
事務局	社会福祉課の説明では、総合計画で位置付けされるとのことであった。あわせて、次の頁にある健康都市宣言の説明が唐突な印象にならないよう、このように図示した。
事務局	議会説明においては、WHO や市民憲章の精神を継承し様々な分野で連携し健康都市を目指す宣言とされており、この矢印には違和感がある。
委員	健康都市宣言から環境基本計画等に矢印がくるのではなく、政策の風通しよくして連携を進めたいという意味と思われる。
部会長	次の頁に健康都市宣言の説明があるのだから、位置付けの図中には不要と思われる。
委員	位置付けの図中にないと、次の頁の説明の意図もわからなくなる。総合計画からの矢印は不要と思う。
部会長	健康都市宣言から横串を通すような図が必要になるので、これ以上は追求しないほうがよい。
委員	次の頁の説明を充実させたほうがよい。
事務局	健康都市宣言について、位置付けの図からは削除し、2 頁の説明を修正する。
委員	3 頁の都市環境の現状について、市街化区域面積の割合（%）が増えた経緯を書いた方がよい。
事務局	「平成 3 年に 14.9 平方キロメートル（市域の 42%）であった市街化区域は、平成 24 年 4 月に 21.5 平方キロメートル（市域の 61%）になりました。」とする。
委員	都市環境の課題について、「保全・再生」と表記するべきかどうか。
部会長	都市緑化が再生にあたるため、このままでよい。

委員	都市環境の課題はこのままでよい。TX 沿線の開発は「100 年に 1 度の大開発」と言われているので、そのすごさがわかるようにされたい。
副部会長	状況を知らない人のために、TX によって市街化区域が増えたことを示してほしい。
事務局	望ましい環境像の解説について、難しい部分があったため委員氏から文面をいただき、あわせて市の計画としての説明を前段に配置した。このような形への是非も含めてご意見をうかがいたい。また、「子ども」は本来複数形であったが現在では単数形としても用いられているという見解が、辞書等でなされている。「子どもたち」としたほうが違和感が少ないと思われる。
委員	解説はよいと思うが、ちょっと長い感じもする。文字が小さいのが気になる。
委員	「子ども」については、文化庁が「子どもたち」と表記しているため、それにならったほうがよい。また、「ども」には見下げる感じがあるが、「子どもたち」になるとそうでなくなる。
事務局	「子どもたち」と表記する。委員氏による部分は、区別のため小さい文字にしている。
委員	森のイメージを明確に説明するために書いた自然史的なものなので、文字を小さくして本文と区別を付けたほうがよい。
部会長	健康都市宣言の説明なども同様に、小さい文字で本文と区分されるのがよい。
委員	この文章の 4 段目を「当時の流山では、斜面林を含めた谷津田の猛禽サンバの繁殖」と修正する。斜面林と谷津田は一体のものである。サンコウチョウは常緑広葉樹の深い森で繁殖する種で、宮脇先生の植樹活動に引っかけている。当時の市内にはあたりまえにいた。
事務局	小さくても写真を入れたい。
委員	「沼田知事（当時）」が適切である。
部会長	1 段目のコロンの用法に注意。「の」にしてはどうか。
委員	潜在自然植生の照葉樹林、人為による二次林、地形から見た斜面林の 3 本柱を意図している。フクロウについては、社寺林などちょっとした森で繁殖するものなので割愛している。
部会長	表題は「流山市の原風景」となるうか。
委員	原風景はよくわからない部分があるが、昔はよく木を切って使っていたのではげ山が多くあり、石油石炭の時代になって緑がよくなったと考えられる。
コンサル	1 段目を削除すると、委員氏の意図がもつとはっきりすると思うがいかがか。行間の余裕と写真のスペースも確保できる。
委員	そうしたほうがよい。
委員	文字が小さいので、読みやすい工夫を。
事務局	（基本目標 1、2 について説明）
部会長	囲みのコラムと本文の間にある点線は不要。
委員	8 頁まちなか森づくりプロジェクトについて、植樹は 1 万 2 千本くらいあるのでは。
事務局	実際はそのくらいかもしれないが、市で把握しているのはここにあるように約 1 万本である。
副部会長	まちなか森づくりプロジェクトに、グリーンチェーン戦略も含まれるのではないか。
事務局	確認する。10 頁の囲みの内容について、「④森のまちへの貢献」の説明が適切かどうか、ご意見をいただきたい。これまでに、太陽光の利用が自然環境に影響の少ないエネルギーというところから、森のまちとの関連が話されてきたと思う。
コンサル	太陽光の利用が森づくりに直接つながるのではなく、「森のまち」という都市イメージに貢献すると考える。
部会長	そのことは、1 段目の最後に書かれている通りである。④の解説部分（箇条書き）を都市イメージへの貢献と説明すれば、わかるようになる。
副部会長	「森のまちのイメージづくり」か。
委員	「貢献」は「強調」「調和」ともいえる。
部会長	「森のまちという都市イメージにあったエネルギー利用」としたらどうか。（全員合意）
事務局	基本目標 3 の 5R について、国が 3R を基本に 2R に力を入れるという流れに従いたいという意向がクリーンセンターから出てきたため、ご意見をいただきたい。一般廃棄物処理

	基本計画の見直しは、上位の環境基本計画に従うようになる。事務局としては3Rと表記する一方、ルールについても重要性を認識して、説明等の部分に反映できればと考えている。
部会長	そのほうがすっきりすると思う。
委員	リデュースとリフューズは意味が近い。
委員	「不要なものは買わない」の部分について、要不要は個人の価値観なので好ましい表現ではない。
副部会長	さらに2Rに絞ると先進的なイメージになる。
部会長	2Rが重要で、リユースとリサイクルを混同しない旨を説明されたい。
副部会長	3Rとして、市民としてできることはまず2Rであると強調されたい。
委員	ルールよりもコンプライアンスのほうが適切と思う。
部会長	3Rと表記し、リフューズとルールは説明に反映することでどうか。(全員合意)
事務局	(基本目標4について説明)
委員	除染の写真がほしい。除染完了の施設数は不要と思う。
事務局	この62施設は、除染実施計画により完了した数である。広報でも使っており、除染した数をきちんと伝えたいと考えている。
委員	了解した。
副部会長	測定結果の公表方法と、測定箇所・頻度も記載するとよい。
委員	農地や農産物の放射能については、タケノコの他に検査を行っているのか。
委員	食品は任意と思われる。
事務局	持ち込みの検査は随時やっている。
委員	今のタケノコ出荷制限の理由を知りたい。
委員	スペースがあれば農産物にもふれられたい。
事務局	検討する。
委員	微小粒子状物質の説明について、単位の表記を揃えて、読み方がわかるように。
事務局	カタカナ表記に統一する。
部会長	PM2.5の呼吸器系や循環器系への具体的な影響が何かもわかるとよい。また、監視体制と注意喚起とは、具体的にどのようなものか。
事務局	注意喚起体制、警告体制といったほうがいいかもしれない。県が発信し、それにもとづいて流山市が防災無線や安心メールで市民に伝える体制となっている。光化学スモッグに準じた形である。過去に市原での観測によるものが1回だけあった。現在は、基準が見直されて当初より緩やかになっている。
委員	スギ花粉とのサイズ比較ができるとよい。
副部会長	微小粒子状物質の説明の2段落目は、文章が整合していない。流山市がどうするのか、市民はどう行動するのが伝わるものにされたい。
事務局	検討する。
事務局	(基本目標5について説明、「市民、事業者の皆さんができること」のヘッダーは全編を通して配置する。)
委員	「基本目標2に関してのお願い」のグラフで、1リットルあたりの表記ではわかりにくい。「基本目標3に関してのお願い」で、5Rは3Rに変わる。
部会長	アンケート意見の見出しのフォントを統一。
副部会長	LED照明や冷蔵庫などと、何年前より何倍省エネになったという説明ではどうか。
コンサル	引用は公式データが望ましい。引き続き検討する。
部会長	機器の買い替えを強いる感じにならないよう、「省エネ型機器の選択」としたらどうか。
委員	こまめな消灯、節電が基本である。
部会長	合併浄化槽の設置に対して補助制度があるならば、そのことも記載されたい。
副部会長	「基本目標4に関してのお願い」について、下水道普及率等のデータを入れると啓発になる。

事務局	基本目標4の目標指標の進捗に、公共下水道普及率を掲載している。
係長	浄化槽には台帳がなく補助制度利用にもとづいて推測しているため、普及率は掲載しにくい。
事務局	(IV環境基本計画に基づく実行計画等と重点施策について説明)
副部会長	生物多様性ながれやま戦略の拠点について、地図にあわせて表や写真の見出しもゴシック体に。写真には引き出し線をつけ、地図凡例を大きくされたい。3計画とも、基本方針の文字を大きくされたい。
部会長	地図・写真の見出しを目立つように。各計画で、基本方針、進捗、アンケートの順にした方がわかりやすくないか。
副部会長	アンケートが先にあると読む気になりやすいとはいえる。
部会長	アンケートを導入部とするならば、見出しを「市民の声」としたり、吹き出し形式をとるなどしたほうがそれらしくなる。
委員	アンケートからは課題は出ない。位置は下段で、見出しは「アンケートの声」などがよい。「見直しの方向性」とあるが、活動現場の意向や見直しに関わる立場を考慮すれば、もっとソフトな表現が望ましい。
事務局	「今後の方向性」とし、その前に「市民の声」としてアンケート結果を置く形にする。
副部会長	生物多様性ながれやま戦略の方向性で、以前から指摘のある東部地区南部地区にふれないのか。
事務局	3段目の内容が該当する。
委員	モニタリング等の可能性がわからないため、現段階ではこのような表記でよい。
事務局	そのあたりの話を、生物多様性ながれやま戦略見直しの市民会議で取り上げていきたい。
部会長	「流山市一般廃棄物処理基本計画」の基本方針について、大量リサイクルからの脱却と資源化の推進が並んでいる部分は、混乱する人があるかもしれない。(他に同様の意見あり)
委員	各計画とも、計画書からの引用である旨の説明があるとよい。
副部会長	見出しにも計画の策定年度が付くとよい。
委員	計画見直しの年度がわかるように。
副部会長	温室効果ガス排出量のデータは最新にならないか。3Rに関しては、資料編の図も変更される。
事務局	統計の時期によるもので、平成24年度排出量の記載は難しい。
副部会長	資料編の「流山市の環境行政」は、「IV環境基本計画に基づく実行計画等と重点施策」の冒頭にくると、内容的に合致する。
部会長	そうすると、3計画の導入としてわかりやすいと思う。
事務局	(基本目標イラスト、緑と水の地図、年表について説明)
副部会長	基本目標5のイラストについて、積極的という感じを出すために、手を挙げたり、みんなで地球を持ち上げている形はどうか。
コンサル	検討する。
部会長	基本目標3のイラストについて、3Rへの変更にあわせて修正。
副部会長	地図の地名は白地にしたり、赤い字にすると見やすくないか
コンサル	色は黒が最も明瞭である。白地にもできるが下にある情報が隠れてしまう。
委員	公園が多すぎないか。
コンサル	市の公園には樹木を活かしたものが多くあるため、できるだけそのことを表したい。実際にはもっとあるのだが、わかる範囲で抜粋した結果である。
秋本	水田と畑・果樹園を一緒にしてはどうか。
コンサル	水田は低地に、畑は比較的高い土地に作られる特性があるため、区別している。
委員	地図は地形図をベースにしてあることで、わかりやすい。大堀川の所管はURから市河川課に変わっている。地名で、(水路)、(水田一帯)、(UR都市機構)、(流山市)は不要。草加流山線桜並木は大島桜の並木で珍しい。「新川耕地の斜面林」(利根運河～花輪城址公園)が必要。
委員	柏市との関係もわかりやすい。

事務局	支援学校周辺はどういう意味があるのか、名称は正しいか。
コンサル	谷津と斜面林が残っているため生物多様性の候補地になったと考えられる。名称は確認する。
部会長	地名の括弧が離れて見えるので詰めたほうがよい。
副部会長	環境の施設のクリーンセンターと森のまちエコセンターを記載。
部会長	年表について。説明文のフォントが細いので明朝体でなくとも丸ゴシック等でよく見えるように。
副部会長	「流山市の動き」を大きく、もう少し左へ移動。「日本の動き」がよいかもしれない。流山市に明るい緑を使い、枠内を色づけしてほしい。TX 開業は少し上へ移動し、環境関係を角丸でなく四角の枠とする。
委員	東京都と北海道の記載や写真よりも、流山市の電気、上下水道、常磐線、流鉄というインフラの話がほしい。都市ガスは江戸川台が最初である。1960年の人口は町人口とする。人口が増えたきっかけがわかるとよい。
委員	日本国内の動きでよいと思う。流山市のことが少ない感じを受ける。説明文がとってつけたようなので、見せ方に工夫がほしい。
事務局	政策的な環境行政は環境基本条例からと理解している。
事務局	常磐道が構想されたときに、市内で反対運動があったため、上部に蓋をする形がとられ、ICは設置されなかった。後の請願によって、現在の流山ICが設置された。
部会長	市の環境部署の歴史はどうだったのか。
事務局	昭和50年頃に環境保全課が設置されている。
部会長	環境省設置と市の環境政策課、環境基本法と市条例のつながりなど、世界や国と市のつながりをこの説明文で示すとよい。生物多様性ながれやま戦略は全国でも早い時期に策定されたことが見えるとよい。「全国に先駆けて」は生物多様性ながれやま戦略に入れるべき。
委員	常磐道の大気汚染対策で蓋がけを要請したことと、種の保存法施行（平成5年4月）からオオタカの調査を始めたこと以外は、さしたる動きはなかったように思う。
委員	左半分の日本国内の部分を下げると、流山市のスペースが確保できる。
部会長	右下の地球地図はきれいだが、スペースの都合で削除してもよい。
委員	地球規模の視点で、あるとよいと思う。
事務局	採用する場合は、出典等の詳細情報を確保。
委員	昭和の都市化は、都市計画法施行と線引きがきっかけである。市の都市計画決定以前の話がほしい。
副部会長	西暦と和暦を併記されたい。
委員	「文明の発展⇒環境問題」は違和感がある。
部会長	「持続可能な発展を求める時代」に対応させて「産業優先の時代」ではどうか
委員	経済重視、産業重視ということである。産業革命、エネルギー革命が出発点になっている。
副部会長	エネルギーの変遷についても示されるとよい。
委員	流山市の部分が充実するとかなりよいものになる。
委員	授業でも使える資料になる。

<部会の今後の日程>

5月26日（月） 13時30分～ 303会議室

<審議会の今後の日程>

5月12日（月） 15時～ 305会議室